

10月

のランチカレンダー（予定）



らい
カフェ来★ぶら～り 2026

月	火	水	木	金	土	日
営業日 月・水・木・土 営業時間 11:00～16:00			1 道産小麦の 焼うどん	2	3 ピザトースト トースト スープ	4
5 ハヤシライス	6	7 ピザトースト スープ	8 おにぎり ランチ	9	10 ピザトースト トースト スープ	11
12(祝) 休業日	13	14 ちらし寿司 ランチ	15 ピザトースト トースト スープ	16	17 +勝まるごとピザ スープ	18
19 炊き込みご飯 ランチ	20	21 ピザトースト トースト スープ	22 +勝まるごとピザ スープ	23	24 手作りパン スープ	25
26 手作りカレー	27	28 ピザトースト トースト スープ	29 道産小麦の 焼うどん	30 休館日	31 ピザトースト トースト スープ	



トースト・ピザトースト（毎回あります）
クッキー（毎回あります）
シフォンケーキ（木曜・土曜にあります）
※月曜・水曜も各種手作りお菓子あります

★印のメニューは、数量限定！
カウンターやお電話でご予約もお受けします

＜日替りランチメニュー＞

- ★おにぎりランチ（おみそ汁付）・・・ 600 円
 - ★炊き込みご飯ランチ・・・・・・・・ 600 円
 - ★ちらし寿司ランチ・・・・・・・・ 600 円
 - ★道産小麦の焼うどん（小鉢付）・・・ 600 円
 - ★手作りカレー（ピクルス付）・・・ 600 円
 - ★ハヤシライス・・・・・・・・ 600 円
- （★印の食後のコーヒーは 150 円です）

＜飲みもののメニュー＞

- オリジナルブレンドコーヒー・・・・ 250 円
- 果汁 100%ジュース・・・・・・・・ 各 150 円
- （アップル・オレンジ・グレープ・パイナップル・
グレープフルーツ）
- カルピス・・・・・・・・ 150 円
- ごぼう茶・・・・・・・・ 150 円

＜軽食メニュー＞

- ピザトースト・・・・・・・・ 350 円
- トースト（バター・ジャム付）・・・ 250 円
- クッキー、シフォンケーキ・・・ 各 130 円
- 手作りお菓子・・・・・・・・ 150 円
- +勝まるごとピザ（月 2 回）・・・・ 450 円
- 手作りパン（月 1 回）・・・ 1 個/130 円
- スープ（月数回）・・・・ 1 杯/150 円

らい
来★ぶら～り TEL 090-1521-5205

（お会計はご注文の際にお願い致します）

会議などにご利用頂けるポットでのコーヒーもご用意できます！



カフェ来★ぶら〜り通信

文責：嶋野奈津美

と、いうわけで読みました！

川崎秋子さんの本！

（先月号でカフェスタッフにお勧めされた作家さんの件です）

本屋さんに行くと、川崎秋子さんコーナーができていて、十勝の農家さんを描いた新作も大きく取り上げられていました。

どの本も面白そうと思わず何冊も買おうとしてしまったのですが、店内をウロウロしていたら他の作家さんの本も何冊も抱えてしまっていたので、迷いに迷って、川崎さんの本は直木賞受賞作「ともぐい」1冊に絞りました。

本屋さんに行くと、いろんな本を読みたくなくなってしまふのはなぜでしょう。

最近は文庫本の価格も高騰しているので、できれば図書館で借りて読みたいところなのですが、なんだか生活が慌ただしく、あっという間に2週間が経ってしまい、読めずに返すはめになったり、返却期限を過ぎてしまったり（ごめんなさい）…、本は買って読む方が「気持ち」が楽な自分がいます。（お金は楽じゃないんですけど^^;）

時間に余裕ができれば、図書館に通って、色々な本を読みたいなあ。そんな生活にあこがれています。

さて、「ともぐい」の感想をば。

文庫本の裏表紙にある概要には

明治後期、北海道の山中で一匹の犬を相棒に狩猟に生きる男・熊爪。人里に馴染めず山を縄張りとする彼は、冬眠を逃がし徘徊する狂暴な熊「穴持たず」に対峙する。……

とあります。

私は、カフェの先輩から聞いていた言葉を何度も思い返しながらかみ進めました。

「内容は…言わない方がいいね。」

「うん、そうだね。」

ああ、そうだ、その通りだ。

簡単には言葉にできない、言葉にしてはならない。「なんかオススメの本ないっすか〜？」と軽々しく口にする女(嶋野)に、この著者の本についてむやみに語るべきではない。

男「熊爪(くまづめ)」。

まずこれが「名前」なのだね？

これから始まる物語の主人公の「名前」だと認識するために、1ページ6行目にして、自分の常識をかなぐり捨てるのだ。

今までの固定概念や価値観を懸命に壊しながら、一気に読み進める。

細かい内容については、やはり「言わない方がいい」。なにはともあれ読んでみてください、としか言いようがない。

読み終えた読後感としては、「す…すごい話だった」「すごいものを読んてしまった」

しみじみと余韻にひたり、感想なんてものも浮かんでこない。真っ暗な宇宙にひとり浮かぶかのように浮いているような気分。

唯一言えることとしたら、犬が少しだけ可愛かった…だ。犬の存在が終始救いだった。

以上、「ともぐい」レポートでした。

面白い本が世にはたくさんあるんですよね。全然読めてないな〜。

決して義務じゃないのに「本を読まなきゃ」って思うのはなぜだろう。面白いから読めばいいだけの話なのに、「読まなきゃ」とも思う。なぜだろう…(続く)